



# ベガルタ仙台レディース 後援会通信

2018年 6月3日発行

**vol.3**

編集・発行/  
ベガルタ仙台レディース後援会

(通算 vol.30)

## ユアテックスタジアムだけではない! 各地のサポーターの熱い応援をお見せします!!

### マイナビベガルタ仙台レディースを応援する市制施行60周年角田市

4月22日(日)、角田市陸上競技場では、マイナビベガルタ仙台レディースとセレッソ大阪堺レディースの熱い対戦が行われました。記録的な暑さではありませんでしたが、晴れわたった青空の下、ホーム戦初勝利をかけての対戦にサポーター・来場者の応援が響きわたりました。

角田市は人口約3万人、平成30年に市制施行60周年を迎え、近年、交流人口の拡大に力を入れており、「菜の花」「宇宙っ子」「梅」「ずんだ」の4大まつりに3万4千人が訪れています。ホームゲーム開催にあたっては「ベガルタ仙台レディース角田ホームゲーム協議会」が全面的に協力しています。協議会は平成25年7月に発足し、行政、議会、JA、商工会、観光物産協会、地域振興公社、商店、多くの民間企業が参加・協賛しています。この日も、市内外のサッカー

チーム等を招待、「協議会」関係者がお揃いのサンバイザーで、サポーター・来場者とともに汗を流していました。

「協議会」副会長の石黒勝昌さんにお話を伺いました。角田市は、10か年の長期スポーツ振興施策を策定し市民一人一スポーツを掲げ取り組んでいます。この場所かくだスポーツビレッジ(角田中央公園)はスポーツ施設が充実・集中しています。総合体育館・陸上競技場(サッカー)・野球場・多目的運動場・テニスコート・温水プール・近くに市民ゴルフ場と、計画的に整備が行われています。「私たちは、レディースの生の試合を見て、リーグでの優勝、なでしこジャパンで活躍する選手を期待して応援しています」「いい試合をして勝ってほしい」願いは一緒です。



お揃いのサンバイザーで



4月29日(日・祝)利府町ひとめぼれスタジアム宮城 AC長野パルセイロ・レディース戦



豪快なロングシュートを決めた沖野くれあ選手に大きな拍手



5月13日(日)石巻市総合運動公園石巻フットボール場 セレッソ大阪堺レディース戦



手書きの横断幕



5月20日(日)会津総合運動公園あいづ陸上競技場 アルビレックス新潟レディース戦



赤べこも応援に駆けつけました



DF <sup>たかひら</sup> 高平 <sup>みゆ</sup> 美憂 選手(18歳)【背番号4】

MF <sup>たけだ</sup> 武田 <sup>ななこ</sup> 菜々子 選手(18歳)【背番号17】

### ●子どもの頃から、サッカー一筋●

高卒ルーキーとして入団した2人、1999年、2000年生まれの18歳だが、サッカー歴は長い。小学生の頃からサッカークラブ(スポーツ少年団)でサッカーに親しんできた2人は、小学校高学年で、すでに将来はサッカー選手にと決めていたそうだ。高平美憂選手(高)はJFAアカデミー福島に中学、高校と在籍、武田菜々子選手(武)は中学時代の秋田FLCから明成高校と、サッカー一筋に打ち込んできた。

### ●オフタイムは、趣味で充電●

1月にはマイナビ仙台Lと合流、念願のクラブチームに所属したが、同時にみやぎ生活協同組合に勤務することになった2人。生活文化部(高)、サービス事業部(武)に所属し、仕事とサッカーの両立に奮闘中だ。

そんな毎日でも、若者らしい楽しみをもつようにしているという。オフの月曜日は、趣味の映画を観に行ったり、好きな音楽を聴いたりしている。自動車教習所に通っているので、運転免許を取得したら、車であちこち行ってみたい(武)。流行の服をスマホでチェックするのが好き。練習への行き帰りは(ジャージではなく)私服で、と決めている(高)。オン・オフを上手に切り替えて、忙しくも充実の毎日のようだ。



若さが弾ける笑顔を見せた、武田(向かって左)と高平両選手

### ●自分のプレーを高めるために●

高平選手が目標にしているのは、浦和レッドダイヤモンズレディースの北川ひかる選手だ。同門のJFAアカデミー福島の2年先輩で、同じ左サイドバック、自分は守備型なので攻撃型の北川選手から学ぶことが多いという。

武田選手は、特に名前は挙げなかったが、多くの選手た

ちからそれぞれの良さを学びたい、と話す。国内外、それも男女を問わず、試合の動画を多く観るようにしている。誰からでも貪欲に学び取りたいという

### ●それぞれの目標●

これまで、途中からの出場が多かった武田選手、与えられた時間にきっちり役目を果たしたい、MFである自分は、得点につなげる、直接シュートを決められる、そうしたチームへの貢献を求められていると思っている。一方若手の自分が一番できることは声を出してチームの士気を高める



こと、ベンチにいる時でも一体となって声を掛けている、という。現時点では、チームは苦しい状況にある。我慢の時期だと思う。こんな時期だからこそ特に声を出し合って、助け合い、現状を打破したい、と語ってくれた。笑顔がとびつきり明るい武田選手なら、チームのムードメーカーとして、流れを掴む原動力になってくれそうだ。



現在、FIFA U-20女子ワールドカップ2018の代表候補に挙がっている高平選手。8月のフランスでのワールドカップ出場は、当面の目標だ。もちろんその先の目標に、なでしこジャパンのメンバーとして出場したいFIFA女子ワールドカップ2019フランス大会があり、2023年のワールドカップも年齢的に十分可能

だ。その実現のために、今、結果にこだわり、名前を覚えていただけるようにプレーで表現したい、という。明確な自己のロードマップを熱く語る表情が印象的だ。

チームの中で、最も若い2人、伸びしろが大きく、これからの成長と活躍が楽しみだ。個人技に磨きをかけ、チームプレーを学び、これからのマイナビ仙台Lを引っ張っていくことを大いに期待したい。

文：K.Naito

イラスト：K.Honma

(4月11日 取材)

自分らしいプレーを磨き、チームとしての結果を出したい